

弘経寺だより

八〇〇年御忌記念 シリーズ法然上人

本号では、私が法然上人のご生涯を学ぶ中で特に激しく心を揺さぶられる部分、青年僧時代から浄土宗を開かれるまでの二十五年間に焦点を合わせてお話したいと思います。

弘経寺だより三四号と三五号にて、ご紹介させていただきました通り一四七年、法然上人十五歳のとき、比叡山に登り源光に師事し、皇円のもとで出家、受戒します。

当時、天台宗比叡山延暦寺といえ、平安末期当時仏教における学問の最高学府でした。全国から選りすぐられた優秀な学僧がそこで学び、特に優秀な者は天台宗における指導者として将来が約束されていました。そんな比叡山において、若き法然上人は十五歳で入山して以来、学問においてメキメキと頭角を現し「知恵第一」と呼ばれるようになり、今で言えば、東大の



主席になるようなものです。将来は座主になるかとまで、期待されたほどです。

しかし、法然上人のすごいところはそんな誰もが羨むようなエリートコースを選ばずに、比叡山の山奥深くの青龍寺というお寺にこもったことです。そのまま延暦寺で学問を続けて天台座主になっても、歴史に名を残したかもしれせん。でも法然上人にとっては、「仏教は本来何のためにあるのか」「自分は一度しかない人生の中で何をすべきなのか」を求めるところの方がもっともつと大事なのでした。

かくして、法然上人は十八歳になると西塔黒谷に隠遁し、叡空の門に入ります。「道」を求めて深く深く経蔵に籠ったのでした。

平安末期といえば、世の中は度重なる戦乱や疫病で荒廃してしました。比叡山のふもと京都においても人々は筆舌に尽くせぬほどの苦しい生活を強いられていました。その苦しい生活に更に追い打ちをかけたのは、当時の仏教がそのような人々に生きる希望を与えていなかったことでした。その当時の仏教において、救済の対象となつたのは

「身分の高い人(貴族)」「たくさん寄付ができる人」「難しい学問を修めた人」でした。当然、世の中の大多数である平民や農民は身分も高くなければ、お金持ちでもなければ、学問もできない人たちばかりで、この世に生きる苦しみで打ちひしがれ、来世にも救いの道が見いだせない「二重の苦しみ」を強いられました。そのような人々は、現世にも来世にも全く希望の光が見いだせない、絶望の淵へと追いやられていたのでした。

この状況を法然上人は誰よりも痛切に感じとり、すべて人が救われる道求めて西塔黒谷の青龍寺にある報恩蔵に籠って、ありとあらゆる經典をひも解き、人々が救われる道を模索しました。特に一切経とい

う經典は全部で五〇四八巻。一日に一巻読んでも十三年以上かかります。それを法然上人は二十五年の間に報恩蔵にて数回も読破したというのですから驚きです。私がこれやろうとしたら一週間も続かないでしょう、という以前に、法然上人のように「そのために死ぬるような人生の目的」を設定することができ

るほど深い精神性を私は持ち合わせていません。經典の大海の中から「口称念仏」という極めて濃厚な一滴を抽出した法然上人の驚異的な意志の力と超人的な努力に敬意を表せずにはいられません。結果として、法然上人が二十五年を費やし、**四十三歳**の時に見出した「口称念仏」が、八〇〇年もの間何百万何千万の人の心を救い続ける教えとなつたのでした。

日本仏教の歴史において「口称念仏」の登場は必然だったとも言えます。法然上人が二十五年間も經典を精読し続けて、見出したかったものは何だったのか。ありとあらゆる世俗に染まらず、ありとあらゆる快樂を排除してまで、見出したかったものは何だったのか。そこに焦点を合わせて考えてみますと、法然上人の

念仏の本質が見えてくるのではないでしようか？

「南無阿弥陀仏」と声に出して称えるという極めてシンプルな行（まこと）。

それは末法の世という濁る時代の中から、法然上人というファイルターによって絞り出されたエッセンスでした。その透き通るように澄んだ

「口称念仏」というエッセンスは、八〇〇年もの間色あせることなく、時代を超えて今も称え継がれています。

御棚経

本年度の御棚経は八月十三日、十四日、十五日の三日間です。地区ごとのお参りの日程は左記のとおりです。

- 十三日：水海道、横曾根、羽生、大輪、溜井・二ツ谷
- 十四日：六軒、細野、大口・大口新田、庄右衛門新田
- 十五日：飯沼

各日とも記載の順番のとおり、地区ごとにお参りいたします。よろしくお願いたします。

大施餓鬼会

施餓鬼会は餓鬼（おんじき）に飲食を施す法会です。その始まりは、お釈迦様の

十大弟子の一人阿難尊者が、樹下瞑想中の夜更け時に、口から炎を吹く

餓鬼が現れて、あと三日の命であると告げられます。阿難尊者はお釈迦様の指示によって、一器の食を「加持飲食陀羅尼」をもって加持し、その

功德によってその少飲食は無量の飲食となり、一切の餓鬼に施します。この供養により、餓鬼は悉く天

に生じ、阿難尊者は福德を得、寿命を延ばすことができました。

餓鬼に施すという善根功德によって、有縁無縁の霊の救いのため、志す精霊の追善のために営むのが施餓鬼会です。

今年も左記の通り厳修いたします。ご参列いただきたく、ご案内申し上げます。

日時 八月十八日(水) 午後

一時一五分 お施餓鬼パネルシアター

二時 大施餓鬼会

※是非、午後一時十五分にいらしてください。法要に先立って、

大妻女子大学の学生さんによる

お施餓鬼のパネルシアターを上演いたします。

場所 飯沼 弘経寺

※永代施餓鬼(申し込まれた年より毎年施餓鬼会にてご回向します、七万円)、新益回向(六尺のお塔婆で

新盆のご回向をします、五千元)、特別回向(新盆以外の精霊や先祖代々を六尺のお塔婆でご回向します、五千元)、付施餓鬼(お札にてご回向します、三千元)

申し込み 各地区のお世話人さんにお問い合わせされるか、直接弘経寺まで申込用紙を同封して現金書留にてお申し込みください。

台所床の張り替え

当山書院脇の台所の床を土生末治さん、海老原泰治さん、石塚正男さんがきれいに張り替えて下さいました。台所が新築のようになりました。土生さん、海老原さん、石塚さんありがとうございます。

水子地藏の赤頭巾

飯沼の飯田洋子さんが赤頭巾を作ってください、すべての水子地藏尊の頭にかぶせて下さいました。お

地藏さまたちが喜んでいらっしゃるように見えます。厚く御礼申し上げます。



地藏講

六月二十二日午前十時三十分、弘経寺のお地藏様の前で、地藏講会員による地藏講法要が営まれました。

お地藏さまに講の興隆と会員各家先祖代々のご回向をお祈り申し上げます。

七月の写経会 七月二十四日(土)

付	話	経	念	仏	談
1:45	受	法	写	お	懇
2:00					
2:20					
2:50					
3:10					

会費一〇〇〇円(高校生以下は五〇〇円) 携行品 小筆(当日受付でも販売します) ※毎月第四土曜日に開催しています。どなたでもご参加いただけます。